



みはら市民大学 ふれあい

第104号
発行・編集
みはら市民大学
ふれあい新聞
編集委員会
電話 64-6868

充実した大学生活を願い 学長 屋敷 光

四月からの学生さんの声が聞こえてくる学校は活気にあふれています。コロナ感染症の影響を受けた昨年度の状況を受け、本年度は講座開始時期を少し早めたり、第五週に講座を入れたりと対策を行いました。教養講座を開くこともでき、生涯学習の場として大学が中心的な役割をしっかりと果たしているように思っています。市民のみなさんに学びの場を知っていただきたいとホームページを充実させたり、ギャラリ展を開催したりしています。是非ご覧いただくとともに知人に大学の活動を紹介していただき、大学への入学のきっかけをつくらせていただければ幸いです。

本年度、新規の講座として、自ら情報を取りに行くような時代に対応できるようにとスマホの講座を拡充させ、より進んだ学びのため大学院に写真の講座を設置しました。七十一講座での学習が皆さんの充実した生活の支えとなることを願っています。

なお、みはら市民大学はLINE公式アカウントを開設しました。QRコードを講座案内に

掲載していますので是非登録をお願いします。



想い出

初めて見た白い彼岸花 廣勢 一三

平成12年3月1日に創刊号を発行して、約12年続けた「メールの輪新聞」からの想い出を紹介します。

私が「今まで、彼岸花には赤いものしかないと思っていたら、ある家の庭先に白い彼岸花が咲いていた。初めて見る白い彼岸花である。ついカメラを取り出しシャッターを押した。」と写真を添えて投稿しました。



すると次号で、Mさんが「先月号で廣勢さんの「白い彼岸花」の写真が載っていました。私も白い彼岸花をはじめて知りませんでした。その写真を見て、十月上旬に



鎌倉の長谷寺で見た「金色の彼岸花」も珍しいと思いき、廣勢さんと編集員の方に写真を送ったところ、「備北丘陵公園で見た」と金色の彼岸花の写真を送ってもらいました。

また、ある方から「両方とも近くの畑にあるよ」とメールをもらった。

その他数名の方から珍しいという感想をいただきました。白い彼岸花の写真からメールでの会話が拡がり、心も金色になったようないい気分になりました。

メールの輪新聞を通じての「仲間の輪」になっているのですから、紙上で会話をし、輪の手をつなぎましょう」と、綴って貰ったことを、想い出しました。



大将

陶芸コース 山根 保弘

我が家には、二才になるミックス犬(ポメラニアとトイプードル混合)を飼っています。散歩に連れて行くのが大変です。「散歩行くよ」と声をかけると家の中で逃げ回って5分ぐらいしてやっと捕まえて行きましたが、3ヶ月前から「散歩行くよ」と声をかけるとソファに座って待っていて仕方ないから行ってあげようかという感じで行っています。行けば、ご近所の方を見たら走って行き足に抱きついてナデナデして貰って喜んでいきます。

他の犬と会えば大同士の挨拶をそこそこにして飼い主の足に絡みつきナデナデを要求しています。他人に対しては吠えずに甘えています。家では、自分の欲求があれば吠え、「お菓子がいる、遊んで」と吠えまくります。

いつもソファに陣取って座り睨みをきかせている甘えん坊ワンちゃん(名前くう)オスです。



「こいpay」で野球観戦

院陶芸コース 内海尚義

5月21日土曜日、マツダスタジアム内のカープグッズ売り場にて、見知らぬ美女から「こいpay」の無料アプリを利用すると安く買い物ができることを教えてもらった。

広銀関連のアプリで今日だけの特典が加入した。

ソフトドリンク300円が100円、生ビール700円が200円で購入でき、半額が還元、またカープグッズは4000円以上の購入で2000円が還元される。

早速お目当てのグッズを購入、ドリンクも4人分を買って観戦中の友にプレゼントする。

初回から得点する良いムードになったので、生ビールで祝杯、追加点で再び乾杯となる。

飲み物すべて、おごりの気前良さの説明は、電光掲示板の「こいpay」の案内文を見てもらい済ませ、皆納得した顔である。

女神と「こいpay」の出会いから始まった野球観戦は、カープの大勝となり、気分爽快で記憶に残る1日となった。

受賞にあたって

院陶芸コース 山際勝利

「老人大学」から「市民大学」に名称が変わって、陶芸コースに十二年間お世話になっております。今年の「広島県美術展覧会」に入選することができました。

月2回の学習は、陶芸以外に興味のない自分にとっては、陶芸が出来るに伴い、仲間に逢える楽しい時間です。講師をはじめ仲間の励ましに感謝しております。

「陶芸の難しさ、楽しさは、作成途中に作品の出来映えが確認できないことです。

粘土からの型作り、素焼き、釉薬掛け、最後の焼成と約二十日間の一連の行程が続きます。

窯出した作品が、描いた物とは違う事が大半です。又、一からの挑戦です。この繰り返しで今回の受賞作品に繋がったと思います。残されたこれからの人生、良き仲間と共に切磋琢磨し、月2回の出会いを大切に、日々「チャレンジ」していきます。



揺曳の刻(ようえいのとき) 院.パソコンF 吉本芳子

昭和、平成、令和と生きてきて、今までに一番記憶に残ったことはと息子に尋ねられ、改めて八十五年の人生を振り返った。

太平洋戦争中は、上空をB29が飛んでいる中、友だちと空襲警報の音を聴きながら下校した。広島県福山の空襲で布団を被って田圃へ避難する。焼夷弾が頭の上をかすめて田圃に落ちる。振り返ってみると、家が燃えていた。父は、南方戦線に出征したまま母国には帰って来なかった。小中高と厳しい暮らしだったが、母の勤勉実直さと優しさに包まれ、精神的には満たされた十代を過ごしたと感じる。

縁あつて二十代から四十代は東京で過ごした。この間の二十二年は都心で多様な文化に触れることができた。常に前向きに生きようとしていた夫との暮らしは、経済的に決して楽ではないながらも、何事にも好奇心と興味を持つことの大切さを教えてくれた。四十代からは広島県三原に移住した。起業した会社も順風満帆だったが、残念ながら平成二十二年に苦楽を共にした夫とは永別となった。夫を思う時、真っ直ぐに生き抜いた夫に恥じない人生を送ろうと改めて自分に言い聞かせる自分があることに気づく。たぶん、気づかされているのだろう。夫と旅した中国の公園で目にした本物の太極拳に瞠目したこともつい昨日のように思える。

私の長い夢であった太極拳では、体幹を鍛えて健康な身体を維持したいと思っている。

パソコン教室は学ぶほどに深く、日々努力の大切さを教えられている。市民大学では多くの友との出会いと交流が何よりの楽しみとなっていると日々実感している。

「大学院で思ったこと」 院.パソコンF 寺岡秀樹

「みはら市民大学」に入学して「パソコン入門」から五年、大学院生となりました。

今までの教室の仲間そのまま院生になれると思っていました。既存の教室に各自が申し込んで編入するということが所属した「パソコンF」は私一人でした。少し寂しく思いましたが、早く教室になじんで仲間に入れていただきたいと思っています。

「パソコンF」では何を学ぶのか今のところ分かりません。「ワード」「エクセル」ではなさそうです。この教室も女性が圧倒的に多く、また学ぶ意欲も圧倒的です。私は少々気がおくれ気味です。でも、私が若かった頃の「スパソコン」並みの性能を持ったパソコンを「安く」「個人で」「自由に」使えることは、幸せなことなので、この教室で少しでも多く使いこなせるよう、教室の皆さんと気長に学習をしたいと思っています。

マスク 院.パソコンF 中重幸治

黒いマスク、白いマスク、柄入りのマスク、冬でもマスクの中が濡れにくいマスクなど、コロナ禍のおか

げで様々なマスクが商品化されましたね。若い頃から花粉症になって1月の終わりから6月の梅雨入り迄、外ではマスク無しでは動けない生活でしたが、長い時間マスクをしていると、不織布の長い繊維が鼻の穴をくすぐったり、濡れてくると口

にべったり張り付いたりで鬱陶しかったのですが、メーカーの開発努力のおかげで立体マスクも改良されて付け心地が格段に良くなりました。

今年に入ってなんとなく、ちょっと色を変えてみようと思いい、黒のマスクを購入しました。見た目はちょっといい感じ❤だったので、畑仕事や外でのお買い物など、有頂天で使っていたのですが、ある日、鏡の中の自分を見てびっくり♥

真っ黒い顔の下半分、そう、マスクの部分だけ白抜きです。慌ててホームセンターで白マスクを買って、色をごまかせるまで出るだけ人前ではマスクを外さないよう、外食を控え野良仕事は花粉症の薬を飲みながら我慢して日焼

陶芸コースでは、7月21日に児童館「ラフラブ」と協賛して親子陶芸体験をしました。

1年生には1時間半の作業は大変だったはずですが、よく頑張ってくれました。



けするためにマスクを外し、やっと普通っぽい顔に戻りました。皆さん！マスクをするときは日焼けに気をつけましょうね！

パソコンが壊れたあ 院.パソコンF 高篠 和男

パソコンがまたまた壊れた(壊れた？)。パソコンの壊れるタイミングは予測できない、パソコンにより、人によりまちまちである。今回の場合は日常使用にはそれほど問題は無かったが、次の不具合があった。

- ・公共システムの予約入力ができない
- ・Word「オブジェクトの選択と表示」が選択できない
- ・PDFファイルが開かない(AcrobatReaderの再インストールでも改善しない)

これらを改善するにはシステムの初期化を実行するしかない。覚悟を決める。問題は、初期化した後の設定の修復に時間を費やすであろうから、講座の合間を縫って、いつ初期化すべきかである。逡巡している間に時間が過ぎてゆき、その間、問題部分の作業ができない。

講座の前日になってやっと重い腰を上げた。各種データファイルはひと通りUSBメモリにバックUP。

回復オプションのシステムの初期化を開始、個人データを残す一番軽いモードで開始、ジャブのつもりがなんと次々と前に進むではないか。以前の時は最終段階のモードまで挑戦しても「その作業は実行できません」と表示され、やむなくメーカーに修理依頼したことがある。

1時間弱で工場出荷状態に戻ったようである。

個人データが確保されているとはいってもあくまでもドキュメントやピクチャなどのライブラリ内のファイルが保護されているのみで、後付けでインストールした各種アプリなどはすべて消えており、その他の苦勞して実行した各種設定もすべて消えている(分かっていただけではあるが！)

とりあえず翌日に使うであろうアプリ類(LINE、Windowsムービーメーカー、Outlook)を修復。

Outlookのデータファイル保存先を変更しているために、修復した後は、過去のメールやアドレス帳が空っぽになっている。データファイルのリンクを何とか設定替えし、過去のデータも使えるようになった。

修復のきつかけとなった問題点も復旧できている。とりあえずは使えるようになったので、数々のアプリや設定は必要に迫られたときに修復して行う。



編集後記

ふれあい新聞「百四号」は院パソコンFが担当しました。

原稿をお寄せ下さいました皆様有難うございました。

お盆前にコロナ感染者が1000人の大台を超えました。「自分の健康は自分で守ろう」ですね。

次回「百五号」は院パソコンGの担当です。よろしくお祈いします